

2017年12月

「インフレーションとデフレーションにおける消費者の購買動向」

経営学部 経営学科 坪井ゼミ
B4R11151 橋本 文弥

[卒業論文概要]

市場においてインフレーションとデフレーションが存在する。インフレーション時は円安となり、市場自体も活性化され好景気になる。逆にデフレーション時は円高となり、市場も停滞し不景気になる。消費者にスポットを当ててみると、好景気時(インフレーション)には財布のひもが緩み購買意欲が高まり、不景気時(デフレーション)には財布のひもが固くなり購買意欲が低くなるのが定説としてある。

しかしインフレーションとデフレーション時で個人の消費者の観点から見て変化はあったのだろうか。私自身、購買意欲や消費に変化はない。

このように 一個人の消費者からみたらインフレーションで好景気だから購買意欲が高まり、デフレーション時は購買意欲が損なわれるとは思えない。

この疑問を解消するため、データや諸説を照らし合わせながら追求した。結論としてインフレーションとデフレーション時で顧客の購買動向に大きな変化はないことが分かった。それと同時に現在の日本市場は伸び悩んでいるという課題も発見できた。今後日本の市場を上向きにするには、労働者の賃金上昇および企業の内部留保の放出が必要である。